

(国語科)

「伝え合い、学び合う国語科の指導」

—物語文の読解を通して—

大阪市立長居小学校 学力向上委員会

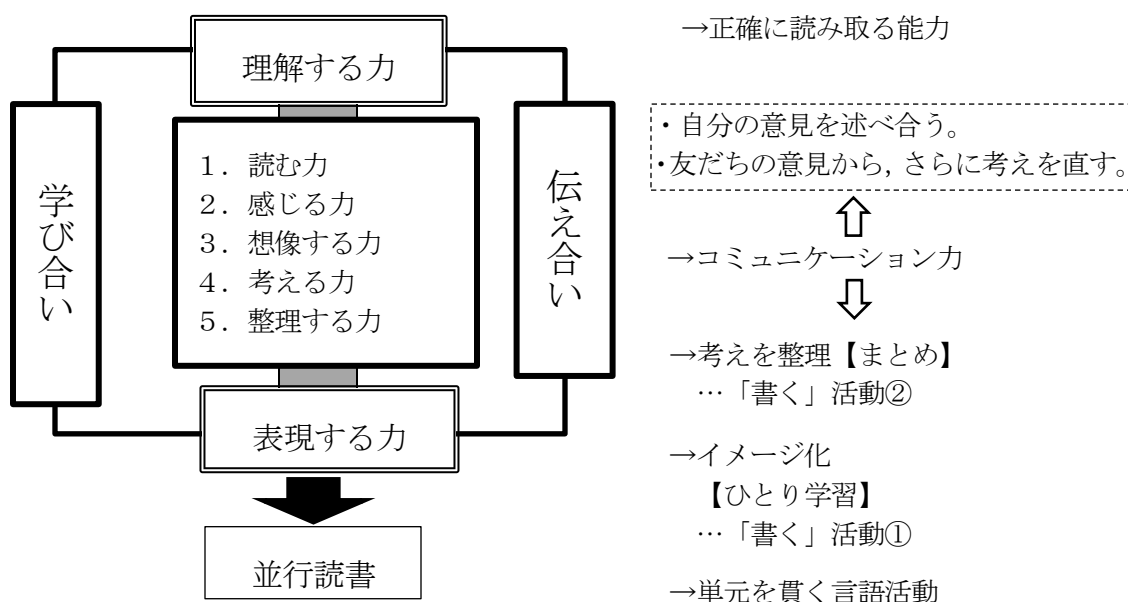
1 はじめに

うまく気持ちが伝えられず、誤解から小さなトラブルが生じる今の子どもたちの特性は、本校にも当てはまる。『コミュニケーション力を高めよう』を教育活動の大テーマに掲げ、英語活動3年、算数科2年、そして国語科2年と、「コミュニケーション力の育成」を中心にすえて研究を進めてきた。前年度と今年度の2年間は「伝え合い、学び合う国語科の指導—物語文の読解を通して—」を研究主題とし、全学年で系統性を見出しながら「伝え合う力」の育成に取り組んだ。

研究目標…物語文の叙述に即して「内容を正確に読み取る能力(理解する力)」を養い、「読む力」・「感じる力」・「想像する力」・「考える力」・「整理する力」を培い、児童が互いに意見を『伝え合い』ながら、『共に学び合う』授業のあり方を考察する。

本校では「ひとり学習」と「話し合い活動」に力を入れて取り組み、次の図表に乗って授業実践を通して研究を進めることにした。(本年度 二年目)

—単元を貫く言語活動実現のための基礎・基本づくりとして—



2 研究の内容

(1) 研究の視点

①文章の叙述に即して、内容をイメージしたり、感動したりすることができたか。

ア. 「ことば」を大切にとらえ、意味や表現をふくらませ、感性や情緒を育む細やかな指導の工夫

(例)「動作化」や「音読」が効果的

イ. 自分の考えや意見を表現し合う学びの場の設定

②自分の考えをもち、友だちの考えと照らし合わせながら、考えを整理できたか。

ア. 一人一人が自分の考えをもつための「書く」活動の工夫

イ. ことばを吟味して、人物の心情に迫る自分の考えを「整理する」活動の工夫

(例) メモ的な「ワークシート」が効果的→ノート作りへ

(2) 実践例

研究授業を各学年1本ずつ、国語科の授業を研究してきた。研究授業では、各学年が視点に沿って指導の工夫を重ねてきた。坪田秀雄先生を招いて、検討会、研究会を重ねながら授業研究を進めていった。

第1学年 「サラダでげんき」 (東京書籍 1年 下)

第2学年 「スイミー」 (光村図書 2年 上)

第3学年 「ゆうすげ村の小さな旅館」 (東京書籍 3年 上)

第4学年 「一つの花」 (光村図書 4年 上)

第5学年 「注文の多い料理店」 (東京書籍 5年)

第6学年 「風切るつばさ」 (光村図書 6年)

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

①自分の考えをはっきりさせながら、内容を理解することができたか。

ア. 「ひとり学習」の場の設定

イ. 「動作化」の設定

ウ. 「吹き出し」の工夫

エ. 「学習課題づくり」の場の設定

オ. つまづく児童への対応

- ・全学年で「ひとり学習」の場を設けたことで、机間指導をより多く行えた。

- ・「ひとり学習」で用いたノートに朱を入れることで、全員に個別指導が行えた。

②「伝え合い、学び合う」場の工夫ができたか

ア. [ひとり学習] → [グループ活動] → [全体学習] への話し合い活動の成果

- ・児童は、自信をもって意見を伝え、児童相互での意見交流が可能となった。

〔「話し合いマニュアル」を参考・改訂させながら〕⇒児童主体の意見交流の実現

- ・指導者は、個々の読みを事前に把握してから[全体学習]に入れたので、一人一人の児童の意見をより多く全体に広めることができた⇒指導者→「支援者」へ

イ. 「5.整理する力」の育成について

- ・低学年…話の順序に気をつけて書いたり、話したり、まとめ音読したりすることができた。

- ・中学年…友達の意見を追加整理しながらノートまとめをしたり、まとめの音読に生かしたりすることができた。

- ・高学年…グループで意見を整理して、ダイヤモンドチャートを完成させたり、書き込みをしたノートに追加補正したりして、まとめの音読に生かすことができた。

4 今後の課題

(1) 指導者による毎時間の学習内容の焦点化を図ること。

(2) より児童主体の話し合い活動の実現を図ること。

(3) 自主学習と追加整理の活性化を図ること。